

開催日：令和4年7月27日（15:30～16:30）
開催場所：香南市役所2階 201.202.203会議室

第1回 幼年就学期部会報告書

（R3年度実績（KPI評価）と今後の取り組みについて）

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	中脇 正人	野市小放課後子ども教室 教育活動推進員	出
2	○	武田 了子	夜須保育所 所長	出
3	◇	前田 真衣	香南市社会福祉協議会 職員	欠
4	◇	竹倉 美智	香南市民生委員児童委員協議会 主任児童委員	出
5	◇	中元 啓恵	香南市教育委員会 教育委員	欠
6	◇	山本 学	香南市PTA連絡協議会 会長	欠
7	◇	貞弘 愛	野市幼稚園 保護者	出
8	◇	藤田 優子	城山高校 校長	出
9	◇	山岡 大二	野市小学校 校長	出
10	◇	尾知 智美	子育てサークル まざあくうす 代表	欠
11	◇	小松 伸子	総合子育て支援センター「にこなん」所長	出
*ファシリテーター		坂本 ひとみ	大阪経済大学 准教授	出

8名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	小松 大洋	こども課	欠
2	○	三木 守	学校教育課	出
3	◇	國松 士晃	こども課	出
4	◇	佐田 和章	学校教育課	出
5	◇	谷口 奈菜子	生涯学習課	出
6	◇	竹村 桂子	健康対策課	出
7	◇	小串 寛美	福祉事務所	出
8	◇	恒光 フミ	市民保険課	出
9	◇	田渕 浩平	人権課	出
10	総括	岩田 由子	地域支援課	出
11	//	中屋 亜希子	//	出
12	//	近藤 誠	企画財政課	出

濱田 豪太 市長 含め12名

☆幼年就学期部会の開催内容（主な資料は事前送付済み）

- ・開会
- ・自己紹介
- ・内容
 1. 令和3年度実績（KPI評価）について（資料、資料2）
 2. 今後の取り組みについて（資料3）
- ・閉会

1. 令和3年度実績（KPI評価）に対して出された意見

（事務局説明：KPIでのB・C評価項目に対する理由等及びR3テーマの取組詳細）

- ・（委員）コロナ等の影響で出来なかった事業もあるが、コロナ禍でもやるべきことはやっていると、出来ることはやられているんじゃないか。KPIを見ても苦慮されていると思う。
- ・（委員）NO.21.22「不登校児童生徒の発生率」について、どのようなフォローをしているのか。
→（学校教育課長）学級担任と家庭との関わりが一番の軸だが、SSWや森田村塾による段階的な支援が成果として現れ、昨年度は複数の学校で復学の割合がものすごく高まった。背景として、ICT整備により、授業に参加できなくても授業を受けているクラスメイトの姿を森田村塾に居

ながら手元のタブレットで繰り返し見られた結果、良い方向に歯車が動いたとの報告があり、多くの学校が同じような形で、別室に居ながらリモートでもクラスを実感できるように、また、学校の中でも別教室から教室の授業が見られるよう取り組みが広がっている。

→(委員)不登校＝孤立でなく、不登校児童が多くてもちゃんとフォローしていることを、学校単位でも保護者に何かを通して発信すれば悪だけのイメージはなくなると思う。

- * (ファシリテーター) コロナをきっかけに全てがオンラインになったことで、小学校・中学校・高校・大学が関係なく学べる。ボーダーレスで小中学生や中高生と一緒に学んだり、そこに大学生が入って一緒に学ぶなど、多様な教育環境が出来上がっている。もっと言えば、オンライン留学も増え、居ながらにして世界とつながることができるので、興味があれば小学生・中学生・高校生・大学生関係なく、現地の人とつながることができる。これは、コロナが後押しした強みでもっと伸ばせる可能性があり、どんどんやっていけばいい。

企業でもオンラインインターンシップという形で企業見学も進んでいて、いろいろな可能性がある。そういう部分を強みに変えて取り組んでいく仕組みを考えていただけたらと思う。テレワーク、シェアオフィスなど、地方に居ながら仕事をされる方もどんどん増えており、香南市は非常に住みやすい場所でもあると思うので。(テレワーク、シェアオフィスの大きな例では、淡路島にパソナが来て 1,200 人移住。更にニジゲンノモリ(テーマパーク)を作って観光客を呼ぶというように非常にうまくアプローチしている。)

様々な取り組み、人生支援計画を見てきて、コロナ禍というのはすごく後押ししてもらっているのではないかなと思って話を聞かせてもらった。ぜひ次のステップに向けて、そういうことも考えていただけたらと思う。

2. 今後の取り組みについて(人生支援計画を振り返っての感想)

○市長から部会委員へ「人生支援計画終了」について説明

→各種個別計画をしっかりと評価していくことを前提に異論なし。

- ・複数課にまたがったの取り組みは今後もプロジェクトチーム等で連携して取り組んでいく。
- ・市民に必要な支援策等は今後も「見える化」して情報提供していく。
- ・地域支援課より、R4 年度は部会委員として意見をいただきたい(改めて依頼する)。

○人生支援計画を振り返っての感想

- ・(委員) 昨年委員になるまで、人生支援計画というものを香南市でされているのを全く知らなかった。携われたことで香南市を知るきっかけになった。なので、私のように何も知らない香南市民の方々にも、もっと香南市を知っていただく、子どもたちのいるご家庭の保護者さんにも、もっともっと知っていただくような取り組みをしていただければと思う。
- ・(委員) 本当にこんなに素晴らしい計画のもと進められているんだなと実感している。小、中と不登校を経験しても手厚く指導されている成果が高校の時に出てきているということで、すごくありがたいと思うし、そういった思いを引き継いでいかなければいけないなということを実感した。
- ・(委員) 本当に細やかな計画で香南市が進められていることをすごくうれしく思う。校内で子どもの遊び場が少ないという話題になり、学校の運動場が使えない時、その代わりにどこを紹介したらいいんだろうという話が挙がった。子どもの声を代弁すると、もっと自由にサッカーやドッチ

ボールができる場所があればと思うし、夏休みにプール開放がなくても、子どもたちが泳げる場所があればなあと思う。

- (委員) 人が集まるのが難しく、市健診でも密にならない工夫がされた反面、ゆっくりお話を聞いてもらう機会が少なくなっているようで、にこなんでは身近な相談が多い。転入者の方が多い傾向の中で、遊び場、特に雨の日に遊べる場所を問われ、暑さ、寒さが厳しい、雨が降ったなどの場面で安心して利用できる場所をすごく求めているなど感じている。また、保育所・幼稚園のように毎日にこなんを利用される方もおり本当に幅広いニーズを最近感じている。市健診時など、にこなんを紹介していただくことで、にこなんが認知され、最近はお産後すぐに来てくださる方もいる。早い時期からにこなんを利用される方が増えて子育ての不安解消になっていると思われるが、妊婦さんから利用してもらえるように更にそういった部分も大事にしていかななくてはと感じている。
- (委員) 不登校だった子たちが森田村塾で学校の授業風景を見ながら雰囲気を感じてかなり学校に戻れている。教室に戻れなくても別室があり、その雰囲気がとても良い。全然関係ない人が入ってもすごく癒される空間で、グリーンやちょっとした優しい飾りがあり、音が聞こえるか聞こえないかくらいの癒しの音楽が流れていて、勉強机には低いパーテーションを置いてちょっとでも他の子と関わられるようにコミュニケーションを大事にしている。そこから通常の授業がある教室に入ろうと思ったら先生がちょっと背中を押してあげられる雰囲気をつくっている。パソコンもいろいろとつながりが出来てとてもいいと思うが、最終的に子どもたちのコミュニケーション。苦手な子がものすごく多く、中学生でも分離不安、特に母子分離の不安が大きく、お母さんから離れられない人がたくさんいる。そういう子がこれから先、大人になってお父さんお母さんになっていく、将来赤ちゃんが出来たりした時に、にこなんやパパママ教室など相談できる場所がすごく大事になると思う。引きこもりの子も同様にコミュニケーションがとても苦手、新しい環境だとすごく不安がある、そういう子どもたちの将来のためにもこういう施設をずっとやっていただけたらありがたいと思う。SSWとして関わった中学生がお父さんお母さんになり、私が関わっている学校に子どもたちが通ってきているのを見た時に安心した。
- (委員) 人生支援計画の中で、保育所の受け入れ態勢や遊び場、朝食摂取のことなど、本当にリアルな話を皆さんで共有できたことが大きかったし、保育所幼稚園のこと以外のことも知ることができて本当に感謝している。香南市の保育所では3か所で一時預かりをしているが、昨年度は0歳児の親から、面接をしてください、受け入れをしてくださいという話がとても多くニーズの高まりも感じたが、受け入れ態勢に限度がありお断りすることも多くなった。この会で、保育士等の人員不足が大きな問題になっていることを知っていただけたことで、知った方がどこかで声がけしていただけているのではないかと期待もしている。保育士も健康で元気でなければいけないと最近特に感じており、コロナ禍の中でどうしても休園にしなければいけない状況など家庭保育に協力いただいている保護者さんにとっても厳しい状況だなと認識しながらコロナの収束を願っている。それと同時にファミサポのマッチングがもっと出来て充実すれば地域力アップというか、地域のおじいちゃんおばあちゃんとのつながりなどちょっとした時に助け合える地域性にもつながっていくと思う。

* (ファシリテーター) 大学教員ということもあり、地方自治の学会と計画行政の2つの学会に入っており、オンラインで話をする中で香南市を紹介させていただいた。全国の皆さんから口をそろえていただける言葉は、実際にこれだけたくさんの市民の方が関わって、これだけのものを作り上げてきたこと、それがすごいと言われる。やっぱり行政側が決めてこういう施策をやりますという自治体が多いが、この人生支援の場合は本当に市民の方がいろいろな部会に分かれてやっている。この幼年期のことを紹介させていただくと、明石市というのは確かにトップを走っているが、トップダウンという面がある。トップダウンでいい結果も踏んでいるけど、香南市の場合はこれだけ多くの市民の方、あるいは子育てに関わってきた方々が多く関わってきたという、本当にそれは皆さんからいろいろな意見をいただけているので良かったなと。本当に多くの市民の方が関わり、関わって初めて香南市のことをいろいろ知ることができたという、まさにその通りだと思う。そういう部分では非常に良かったのではないかな。

それと、先程コミュニケーションの話が出たが、私はコミュニケーションというよりも対人対応能力が落ちていると思っていて、彼らはコミュニケーションはSNSでものすごくたくさん発信しているが、対人対応能力がどうしても弱くなっているところがある。実際私たちが関わってきた中でそういう子たちを元気にしていく場で農業がすごく良くて、農業や動物に関わっていきながら、そこからどんどん親と子を分離していくという事をする。最初は親子じゃないと来ないが、子どもだけでも来られるようにする。その他にもいろいろな方法があると思うので、うまくいっている方法を見ていったらどうかと思う。

それから、人生支援計画の中でできあがったのいち動物公園の年間パスポートの配布。6月にのいち動物公園の職員研修をさせていただき、その中でこの話が出てきた。窓口で香南市の方がパスポートを申請することで、香南市の人たちがこれだけ来てくれているということが初めてわかり、職員のモチベーションにつながっているという良い効果があったそうなので、そういうところが見えてくると動物公園がもっと良くなるのではないかと職員の方に聞いた。

それと同時に、いろいろなものの持ち込みが禁止されているので大変申し訳ないという言葉も出ていた。持ち込みに関して非常に厳しくて、例えばサッカーボールやテント、バーベキュー等持ち込みできないのでそれが非常に申し訳ないということで、自由の利く遊び場があればいいのではないかなということもその研修を通して感じた。

そういった部分を含め、幼年就学期部会だけではなく全体を見させていただいたが、実際に市民の方がしてほしいというものが稼働してきているので、いい形で次に、選択と集中という形でステップアップしていただけたらいいのではないかなと思う。

最後に、香南市にも海外の方が何百人かいらっしゃるが、海外の労働者の方は、日本が為替で安くなってしまったので日本で働く意義を見出せずに、日本から他の国にという状況になっている。これから労働者が日本に増えるのは賃金が上がらない限り難しいところがある。ご存知のとおり、日本だけ賃金が30年間上がっていないという現状があるので。

それと逆に、留学生・観光客が増えてきている。日本が安いということで増えているが、そういったアドバンテージの部分を使いながら、いろいろな所でうまくやっていけたらいいのではないかなと思う。

*最後に、幼年就学期部会の委員それぞれ、この会に参加されているいろいろな思いも見えたり、現状を知ったり、いろいろなことが分かって、一言良かったなという事だと思えます。以上。

【資料4-2】

開催日：令和4年7月27日（水）18：30～20：00
本庁6階604・605号室

第1回 成年熟年期部会報告書

(R3年度実績[KPI評価等]と今後の取り組みについて)

◇部会委員 ◎部会長 ○副部会長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	川田 勲	香南市スポーツ推進審議会	出
2	○	百田 久範	青少年育成香南市民会議	出
3		坂下 真人	高知県小中学校PTA連合会	出
4		村井 洋子	吉川町まちづくり協議会	出
5		北村 大河	高知県障害者スポーツセンター	出
6		吉岡 潤	高知県人権啓発センター	出
7		白石 令子	香南市社会福祉協議会	出
8		大庭 静子	食生活改善推進協議会	欠
9		飯島 信也	移住者(グラフィックデザイナー)	出
10		西内 慶明	こうなんスポーツクラブ事務局	欠
		ファシリテーター 池添 佳代		出

9名

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	猪原 加江	生涯学習課	出
2	○	伊藤 祐美子	健康対策課	出
3		吉村 亮子	//	欠
4		山崎 正博	生涯学習課	出
5		岡田 真樹	//	欠
6		小松 寿美	//	欠
7		福井 理加	福祉事務所	出
8		山下 篤	人権課	出
9		浜田 悦秀	商工観光課	出
10		岩田 由子	地域支援課	出
11		小川 哲弘	//	欠
12		中屋亜希子	//	出
13				

8名

☆成年熟年期部会の開催内容

- ・開 会
- ・議 題
 - ① R3年度KPI評価【成年熟年期部会】
 - ② R3年度テーマごとの取り組み実績について【成年熟年期部会】について
テーマごとに今までの取り組みと令和4年度新規事業を報告
 - ③ ファシリテーターまとめ
 - ④ 今後の取り組みについて（市長より説明）
 - ⑤ 今後のスケジュール等の確認（地域支援課）
 - ⑥ 今までの各委員からの感想
- ・閉 会

1.R3年度KPI評価事務局報告

- ・KPI評価書の評価Aの内容をまとめて事務局報告
- ・コロナ禍であるが、歯科健診の受診率、生涯スポーツ教室の参加者数や移住促進ホームページのアクセス回数の増加理由を報告。人数制限を回数で補うことや、情報伝達方法の

改善を行うことである程度の成果がでていと報告。

2.R3年度テーマごとの取組み実績について事務局報告

3部門（人権啓発・移住促進・健康増進）の実績及び今後の展望について報告
KPI評価及びテーマごとの取組み実績に対して出された意見

- 委員・・・・・・・・③結婚新生活支援事業について、年齢制限39歳以下が対象となっているが、昨今、結婚年齢が40歳以上の方も増えてきており、また、所得も400万以下の方もいるので、国の補助対象外としてでも、市の現状を踏まえて独自の施策として年齢制限の見直しをしてほしい。
- 地域支援課長・・この補助事業は、若い人の結婚を後押しする少子化対策事業として位置づけられている。令和3年度から対象年齢が34歳から39歳に引き上げられているが、今後は、あらゆる方向から判断し市独自の施策としてできることを検討していく。
- 委員・・・・・・・・特定健診の受診率の向上した理由について健診をされた方からの聞き取り調査等をされているか。
- 健康対策課長・・アンケートを実施している。
アンケート結果では、①7割の方は、健診を勧めるハガキが来たから。②健診に関心があったから。③自分の身体を大事にしたいからであった。
未受診者へのアンケート結果では、壮年期の世代では、①時間がない、②関心がない③現在病院にかかっているとの回答が多く、40歳～50歳の方の未受診の理由は、平日では仕事のため受けられないが最も多くそのため、日曜日に健診を行うようにしている。
- 委員・・・・・・・・②9外出支援サービスの利用者数ですが、利用者数が少ないので、対象者に直接伝わる機会、障害者の方々が参加される催し等の時に合わせて制度の説明、ピーアールをしていけば良いと思う。
- 福祉事務所・・障害者の方が参加する機会等を活用して、周知していく。
- 委員・・・・・・・・④4移住希望者向けお試し滞在住宅について、新たな施設整備の検討とあるがどのようなものか。また、移動手段についての見直しを検討しているのか。
- 地域支援課長・・現在、中山間地域に1軒ですが、より広く香南市を知ってもらうために、市街地に（野市）設置してはどうかとの意見もあり、現在、まちづくり協議会と共に活用できる空家調査を実施している。その中から活用できる物件があれば追加をしていきたいと考えている。
この制度は、中山間地域の人口減少対策として実施しており、車が生活必需品ということは周知している。現在のお試し住宅の近くには市営バスの停留所があり、また、自転車の貸出しも行っている。現状として移動支援の拡充は考えていない。
- ファシリテーターからの感想
R3年度の実績から、コロナ禍であるため、数値の減少はやむを得ないと思うが、人数を少数にし、回数を増やし実施とあるが、回数を増やすと職員の方の負担があったのではないかと思われる。
香南市は県下でも活気のあるまちとして位置づけられているが、他のまちとの違いを考える場合、目新しいことも大事だが、やはりベーシックに考え、

元から住んでいる方や新しく来られた方が、ここでは、安心して子どもを育てられる、シングルであっても、18歳までは、子どもを育てることができると言われるまちにするべきと考える。

3.今後の取り組みについて市長報告

市長報告に対する意見や今後の市政に対する要望等

委員・・・・・・・・人口の流出問題について具体的な施策をどう考えているのか。

市長・・・・・・・・問題が2つある。

高校卒業後、大学で都会へ出て行く。地元で生活できる基盤作り
南海トラフ対策で沿岸部分や山間地域の人口減少問題
問題解決に向けて具体的な施策を検討していく。

委員・・・・・・・・被災後の中心となるまちが香南市だと思っている。

香南市は多種に渡って事業を行っているが、分かり難いし魅力が伝わらない。
本当のやる気が感じられない。

市長・・・・・・・・香南市の事前復興について、大事なことであるので県と共に協議している。
地域を巻き込んだ活動をどのようにして行っていくべきか、香南市は余りにも
多彩であり、多くの事業が浸透し切れていないとも感じている、今後、検討
して行く。

委員・・・・・・・・空家バンクについて、今後、空家は増えてくると思うが、空家になってからの
対策ではなく、空家になる前バンクが必要ではないか。

地域支援課長・・・・・現在、空家になる前に、登録できるようになっている。
制度の周知徹底を行っていく。

4.今後のスケジュール等の確認（地域支援課）

任期は令和5年3月31日で終了と報告

5.各委員から人生支援計画に携わっての感想報告

委員・・・・・・・・一人ひとりへの幸せのための取組みと「考えられないことを考える」こと
と「考えたくないことを考えてほしい」

・限界集落対策を願う。

・ユニバーサルデザイン：「みんなが一人のことを尊重し合う社会にする」

委員・・・・・・・・人生支援の取組みに対して他の計画と重複してしまい分かりづらいつと感じた。

・行政の組織、縦横の横断、連携をしながら事業を勧めて欲しい。

委員・・・・・・・・ビジネスマン観点から話しをさせてもらった。

行政に対する期待は、防災や教育等、行政でなければできないことがある
ので充実を図って欲しい。

委員・・・・・・・・行政が考えにくいこと、例えば、被災時の避難場所ではなく「遺体安置所」
も必要である。市民にリアルなことを伝える、行政の本気とはそういったこ
とではないか。

委員・・・・・・・・学力向上と人権啓発について

他の委員の「高知市のオーテピアが羨ましい」という言葉が印象に残っている。学力向上の示される姿は、そのまちの本屋がつぶれないことにある。図書館で廃棄される本を各学校の学級文庫として提供できないものか。本を借りて読むことも大切だが、本を買う文化も大切だと感じている。

- ・人権啓発について、被差別部落の苦勞話しに感動するだけの研修やただ聞くだけの研修ならあまり必要でない。研修に参加された方が発信者として、市民一人ひとりが啓発者となることが大事である。

委員・・・・・・・・自分の人生を考える良い機会になった。

委員・・・・・・・・香南市は魅力のあるまちであり、職員も頑張っている。市長の掲げている「見える化」について、どのように「見せるか」見ていきたい。

部会長・・・・・・・・香南市、特に野市はこの10年で大きく変化してきた。活気のあり社会的交通条件として発展できる要素が多くある。これからも香南市の発展に期待する。

【総括】ファシリテーター

市長の今後の取組み内容では、行政組織内の横断的な取組みとして「プロジェクトチーム」を立上げ、市民の声を「見える化」と言われたが、どのように「見える化」するのかと感じた。

また、子どもたちの中で相手を傷つけないために、踏み込んだ話しをしない傾向が見受けられる。会話ができる話合いが必要であり、自分の事を話すだけではなく話合いの中での出来事として会話することが大事である。

この会は、皆さんの活発な意見が沢山出てきていたので、自分も皆さんと会話ができ楽しく感じた。

閉 会

開催日：令和4年7月22日（15:00～16:00）

開催場所：香南市役所6階 604,605 会議室

R4 年人生支援計画（高齢期部会）報告書

部会委員 ◎部会長 ○副部会長

◇事務局 ◎事務局長 ○副事務局長

	役職	氏名	所属	出欠
1	◎	小松 健一	香南市社会福祉協議会 会長	出
2	○	福井 清仁	民生児童委員会 代表	欠
3		大谷 修二	高齢者クラブ 代表	出
4		矢野 由美子	第2号被保険者代表	欠
5		岡本 八重子	第1号被保険者代表	出
6		福永 康夫	夜須町民生児童委員協議会	出
7		近森 孝章	シルバー人材センター	出
8		吉田 和	香美人権擁護委員協議会	出
9		名倉 恵子	サービス支援代表	出
10		横山 郁夫	生活支援コーディネーター	出

8名

	役職	氏名	課名	出欠
1	◎	都築 敏夫	高齢者介護課	出
2	○	坂本 充子	福祉事務所	出
3	◇	弘田 満紀	高齢者介護課	出
4	◇	松田 洋彰	福祉事務所	出
5	◇	伊藤 正和	環境対策課	出
6	◇	鮫島 加代子	人権課	出
7	◇	福井 智歩	健康対策課	出
8		岩田 由子	地域支援課	出
9		中屋 亜希子	地域支援課	出
10	◇	宮崎 遼	地域支援課	出
11	◇	宇田 道太郎	生涯学習課	出
12		小川 哲弘	地域支援課	出
13	◇	寺田 義文	高齢者介護課	出

13名

☆高齢期部会の開催内容

1. 開会

2. 自己紹介

各委員から自己紹介

3. 議事内容

1) 令和3年度の実績報告

高齢者介護課長より説明。58番、軽スポーツの参加者数について、コロナの影響により、参加者が目標より減少し、B評価とした。その他、全体の6項目がB評価、C評価が5項目。また、61番、運動会については開催しておらず、評価ができなかった。今後再開に向けては支援体制が必要。

60番、63番、67番については実績値が前年より伸びている。

★各委員より質疑

・部会長より

シルバー人材センターの人材確保について工夫していることがあるか？

⇒（委員）

広報やケーブルテレビで呼びかけを行った。その他、草刈などの講習参加者については積極的に呼びかけを行った。

2) 今後の取り組みについて

(市長) 資料に沿って説明。

人生支援計画について委員の皆様のこれまでのご協力・ご尽力に感謝したい。高齢期部会をきっかけに、昨年は高齢者への支援事業として可燃ごみ個別収集事業に取り組んだ。人生支援計画についてこれまで検証してきた結果メリットもあったが、課題もあった。

今後は、取り組んできて見えてきたものを生かし、現在取り組み中のものや課題については関連する個別計画で取り組んでいく。また、KPIについても各個別計画で進捗管理していく。市民の皆様に支援策をわかりやすく提供するために、今まで以上に取り組み内容や市民の声の2点について、個別計画の中で見える化を進めていく。香南市に住んでよかったと思えるまちづくりを進めていきたい。

各委員より質疑

(ファシリテーター) 人生支援計画の年代の設定はどのように決めたのか？

⇒ (地域支援課長) 人生支援計画は人生のステージごとにつながっており、トータルで人生支援をしていくイメージだった。

(ファシリテーター) ステージごとのバトンについてどのように考えていたのか？

⇒ (地域支援課長) 3つの部会で共通しているものを事務局会で協議していた。

(部会長)

香南市には40余りの個別計画があるが、人生支援計画に取り組むことで個別計画を飛び越えた課題がでてきた。シルバーや送迎バスなど。各課の取りまとめは大変だったと思われるが、新たな事業につながったものもあり、その点は良かった。範囲が広すぎて、議論の内容がわからなくなったこともあった。今後は個別計画についても、いろいろな視点で検証していくことができれば、人生支援計画と同じようになるのではないかと。

(委員)

コロナ禍により一緒に楽しむことができなくなり、今後どうしていいかわからない。

(委員)

現在、いきいきに参加しているが、できることを毎回考えて取り組んでいる。来年3月にAコープが閉まることについて地元住民が困っている。

(委員)

高齢期部会のおかげで高齢者が外に出るきっかけとなってうれしかった。一緒に遊べる仲間も増えた。県民スポーツフェスティバルについて、昔はお金が出ていたが、今は出なくなった。高齢者が活発に動けるように、市で送迎バスをかまえてもらったりしてほしい。また、県外に行く時なども、市バスの利用制限があるが、もう少し緩和してほしい。

(委員)

高齢期部会は高年齢者とかかわりがある団体や人が、高年齢者特有の課題をみつけて、解決策を探していく場と思っている。今後は買い物難民や医療難民などの問題について取り組んでいきたい。

(委員)

赤岡町は高齢者ばかり。高齢者同士が助け合っている。自分たち同士で助け合うという形が赤岡には合っているように感じる。ごみの回収の時はみんなが生き生きしている。今後は高齢者同士がやれることを見つけていきたい。

(委員)

コロナ禍で人権相談もめっきり来る人が減った。野市の佐古地区は新興住宅地になっていて、新たに移住してきた家族が多く、地域性をどう育てるかが課題。市役所に対しては市民をつなげていくヒントをもらいたい。

(委員)

地域住民がつながるため、生活支援体制整備事業を社協で取り組んでいる。人は役割があればいきいきする。ご近所の助け合いが大きくなれば、つながりが大きくなり市全体に広がっていくと思う。

(部会長)

これまで部会で話し合ってきたことや今回出てきた意見を踏まえて市長に取り組んでいてもらいたい。人生支援計画が終了しても、発信ができる場所を確保していくことも大事と思う。

(ファシリテーター)

課題について行政の仕組みの中で解決できることが想像できる市であってほしい。また、挨拶してもかえってこないなど地域住民のつながりが薄くなっているため、地域住民のつながりを作っていける行政のサポート体制を作ってほしい。

(委員)

人生支援計画と個別計画が重複しているところがたくさんあるので、人生支援計画は終了して、個別計画で取り組んでいくということか？

(市長)

そうです。ここまで解決できていない問題については、テーマを絞って取り組んでいきたい。また、個別計画に今までのノウハウをどうやって反映していくかを考えていきたい。職員や関係機関の委員、市議会の方などの意見をお伺いしながら考えていきたい。

3) その他の件について

(地域支援課)

部会の委員の任期について、令和5年の3月末までは委員の皆様引き続きお願いしたい。今月中に3つの部会が開催され、8月に策定委員会を行う。そこで出た意見についてはみなさんへ共有するので意見をいただきたい。また、人生支援計画についてまとめた資料を作成するので、完成したら、皆様の意見をお伺いしたい。

高齢者介護課長より閉会挨拶。